

# 「福島を忘れるな」

## 廃炉求め 小浜で集会

原発の廃炉を求める「さよなら原発 福井県集会2016」が13日、小浜市大手町の市文化会館で開かれた。主催は県内の市民による実行委員会。高浜原発3、4号機の運転を差し止める大津地裁の仮処分決定の報告があり、市民ら約600人が参加。「福島を忘

れるな」と声をあげた。弁護団の笠原一浩弁護士は、仮処分の内容を報告。これまでの福井地裁の大飯原発差し止め判決や高浜原発の再稼働を禁じる仮処分決定に触れ、「決して特定の裁判官の見解ではなく、広く国民一般の良識を反映したものであることが明らかになった」と話した。

また、嘉田由紀子・前滋賀県知事が講演。大津地裁の判断について、立地自治体の近隣住民の主張が認められたことを「提訴当事者の幅が広がった」と評価した。

嘉田氏は若狭での原発事故が、近畿の水源地である琵琶湖の水質や生態系に深刻な影響を与えることも説明。さらに原発事故時の避難計画について「実効性のある避難計画は無理。住民の安全安心を守る意思が原子力規制委員会と政府に欠落している」と指摘した。

県内外の市民も壇上で思いを述べた。原発作業員を経て約20年前から甲狀腺の病気に闘う敦賀市の中村順一さん(61)は、同僚が白血病で倒れたことを紹介。労災と認められず、公表もされない事例が多数あるといい、「原因は分からなくても白血病で亡くなったと聞けばみんなどう思うか。人の命を犠牲にして電気を作らなければいけないのか」と語気を強めた。

(大久保直樹)



集会の終了後、「福島を忘れるな」などとシュプレヒコールをあげながらデモ行進する参加者＝小浜市内